

イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。その中から、いくつかの事業についてご報告します。

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2021 (2021年11月23日/国立民族学博物館)

主催:公益財団法人千里文化財団

人類・いのち・万博 — 1970から2025に向けて

2025年大阪・関西万博の開催意義などについて、吉田憲司氏(国立民族学博物館長)、西尾章治郎氏(大阪大学総長)、ウスビ・サコ氏(京都精華大学学長)、山極壽一氏(総合地球環境学研究所所長)、井上章一氏(国際日本文化研究センター所長)が提言を行いました。この中で、①参加国との協働・共創作業の場 ②大学間のグローバルな共創 ③ユーロセントリズムではない共創のあり方 ④ヒト中心ではない「いのち」と「いのち」のつながりなど、ともすれば開催国や先進国を中心に企画・推進されがちな国際的博覧会に警鐘が鳴らされました。また、オリンピックと比べて万博の訴求力が弱くなっているとも指摘されました。

パネルディスカッションでも各氏からさまざまなアイデアが出されました。キーフレーズの一つは「壁を越える」。①京阪神の壁

②バーチャルとリアルの壁 ③オリンピックと万博の壁 ④人間と人間の壁 ⑤言語の壁 ⑥国家の枠組みという壁などを越える必要性が述べられました。最後はファシリテーターの吉田氏がやや冗談まじりに、「京阪神に奈良を加えてその壁を壊さないと、国の壁とはいついられない」と語り、締めくくられました。本シンポジウムの詳細は、2022年4月に千里文化財団が発行予定の『季刊民族学』180号に掲載されます。



パネルディスカッションの様子

令和3(2021)年度 関西元気文化圏賞 贈呈式 (1月24日/リーガロイヤルホテル大阪)

主催:関西元気文化圏推進協議会

オリックス・バファローズに大賞を贈呈 文楽夢想実行委員会らに特別賞

文化・芸術・スポーツなどの分野で活躍し、関西から日本を元気に明るくした人や団体へ、感謝と一層の活躍を期待して贈られる関西元気文化圏賞。第19回となる今回は、昨年、25年ぶりにプロ野球パシフィック・リーグを制覇し、関西で16年ぶり、球団統合後初のリーグ優勝を遂げたオリックス・バファローズに大賞が贈られました。球団社長オーナー代行の湊通夫氏は、「私たちは阪急ブレーブス、大阪近鉄バファローズ、オリックス・ブルーウェーブの3つの魂が入った球団。昨年の優勝で、ファンの方々や選手から『やっと一つになれた』というメッセージが届き、非常にうれしく思った。この受賞で、私たちこそ元気と勇気をいただいた」と喜びを語りました。

また、昨年8月に自主公演『人形浄瑠璃 文楽夢想継承伝』を行った文楽夢想実行委員会などに特別賞が贈られました。同実行委員会は、コロナ禍で若手の自主公演が激減し芸の継承が難しくなることを憂いた人形遣いの吉田玉翔さんが、若手技芸員や師匠たちに呼びかけてスタート。公演中の吉田玉翔さんに代わって登壇した鶴澤友之助さん(文楽三味線)は、「アーツサポート関西やクラウドファンディングを通じて寄付を集め、無事公演を終えることができた。今後も日本そして世界に愛される文楽であるよう一層努力していきたい」と笑顔を見せました。

贈呈式は文化庁芸術祭賞贈呈式と併せて行われ、冒頭、

都倉俊一文化庁長官は、「2年におよぶコロナ禍で塗炭の苦境にありながら、人々の心に勇気と潤いを与える活動を実践してこられた」と文化芸術にかかわる人々を称賛。関西元気文化圏推進協議会の松本正義会長は、「これからも皆さんのパワーで関西から日本の人々を元気づけていただきたい」と呼びかけました。各賞の受賞者は次の通り。

大賞:オリックス・バファローズ、特別賞:文楽夢想実行委員会、塚本康浩(京都府立大学学長・獣医学博士)、東京2020オリンピック・パラリンピック特別賞:関西出身の東京オリンピック・パラリンピックメダリスト31名、ニューパワー賞:反田恭平(ピアニスト)とJapan National Orchestra株式会社、金子扶生(バレエダンサー)(敬称略)



受賞者と主催者

堂島薬師堂節分お水汲み祭り(2月3日/堂島薬師堂・大阪市北区)

主催:堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

新型コロナ退散や商売繁盛を祈願

関西経済同友会の提言を受け、大阪・キタの活性化と水都大阪の再生をめざして始まり今年で19回目を迎えました。今年も新型コロナウイルス感染症対策として、堂島薬師堂での節分法要やお水汲みなどに限定して実施。読経が響く中、お堂の周りでは手を合わせる人の姿も見られました。



堂島薬師堂にて薬師寺僧侶から竹筒にお香水(こうずい)を受ける